事業完了報告書

提出日：2023 年　5 月　8 日

1．事業概要

（1）資金分配団体名：公益財団法人みらいファンド沖縄
（2）事業名：沖縄・離島子どもの派遣基金事業
（3）事業実施期間：～2023 年 3 月 31 日
（4）実行団体名：一般社団法人沖縄県サッカー協会　特定非営利活動法人豊見城市体育協会
株式会社ハブクリエイト

2. 規程類の整備・運用実績

いずれかにチェック☑をつけていただき、項目ごとの設問に回答してください。

（1）事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。
☑　完了　／　☐　整備中
→上記で「整備中」を選択した場合、整備できていない理由を記載してください。また、事業開始時と比較して、整備状況が改善された点を記載してください。
（2）　整備が完了した規程類を自団体の web サイト上で広く一般公開していますか。
☒　全て公開した　／　☐　一部未公開　／　☐　未公開
→上記で「一部未公開」または「未公開」を選択した場合、その理由と公開予定日を記載してください。
（3）　変更があった規程類に関して JANPIA に報告しましたか。
☑　変更があり報告済　／　☐　変更があったが未報告　／　☐　変更はなかった
→上記で「変更があったが未報告」を選択した場合、その理由を記載してください。

3. ガバナンス・コンプライアンス体制の整備・運用実績

いずれかにチェック☑をつけていただき、項目ごとの設問に回答してください。

（1）　社員総会または評議員会、理事会は、規程類の定めるとおりに開催されていますか。
☑　はい　／　☐　いいえ
→上記で「いいえ」を選択した場合、その理由を記載してください。

（2） 内部通報制度は整備されていますか。
☑ はい ／ ☐ いいえ
→上記で「はい」を選択した場合、設置方法を以下から選んでください。（複数選択可） ☐ 内部に窓口を設置 ／ ☐ 外部に窓口を設置 ／ ☑ JANPIA の窓口を利用
（3） 利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。
☑ はい ／ ☐ いいえ
→上記で「いいえ」を選択した場合、その理由を記載してください。
（4） 関連する規程類や資金提供契約の定めるとおりに情報公開を行っていますか。
☑ はい ／ ☐ いいえ
→上記で「いいえ」を選択した場合、その理由を記載してください。
（5） コンプライアンス委員会を設置していましたか。
☑ はい ／ ☐ いいえ
→上記で「いいえ」を選択した場合、その理由を記載してください。
（6） ガバナンス・コンプライアンス体制の整備や強化施策を検討・実施しましたか。
☑ はい ／ ☐ いいえ
→【任意】上記で「はい」を選択した場合、どのような検討・実施をしたか事例を記載してください。 理事・職員向けに　コンプライアンス研修を実施
（7） 団体の決算書類に対する会計監査はどのように実施しましたか。本事業の最終年度の状況を選択してください。（実施予定の場合を含む）
☐ 外部監査 ／ ☑ 内部監査 ※（複数選択可）
→上記で外部監査／内部監査を選択した場合、その実施者/実施時期を記載してください。
（8） 本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。
☐ はい ／ ☑ いいえ

4. 広報実績

いずれかにチェック☑をつけていただき、設問に回答してください。

（1）シンボルマークの活用状況
☑ 自団体のウェブサイトで表示している ／ ☑ 広報制作物に表示している ☑ 報告書に表示している ／ ☑ イベント実施時に表示している ☑ その他 →「その他」を選択した場合は記載してください （自由記述）：本事業で購入した備品などに表示

最終年度の広報実績について記載してください。

広報種類	有無	内容
メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB 等）	有	・ 「勝てば勝つほど深刻に…沖縄の子ども、部活派遣費に 1 人 6 万 5 千円の負担」（2022 年 9 月 21 日　沖縄タイムス　1 面）※部活動派遣費を考える地域円卓会議 in 豊見城 ・ 「全国出場や入部断念も／部活派遣費　深刻な声／「次世代選手に学習効果」／登録外メンバー同行を報告」（2022 年 9 月 21 日　沖縄タイムス　16 面） ・ 「生まれた場所、家計の状況で権利がはく奪されるべきではない」「親に迷惑をかける」部活動の派遣・遠征費を考える派遣費支援考える　負担大きすぎで休部も」（22 年 9 月 24 日、RBC 琉球放送　放送）※部活動派遣費を考える地域円卓会議 in 豊見城 ・ 「部活派遣費負担「厳しい」　市内小中高生、年間 4800 人超」（22 年 9 月 28 日、八重山毎日）※部活動派遣費問題を考える地域円卓会議 in 八重山 ・ 「飛行機に乗らないと県大会にも参加できない・・　部活動の「遠征費」　離島や困窮家庭への支援を」（2022 年 11 月 12 日　RBC 琉球放送） ・ 「部活動派遣費の補助拡大を　市に要望、子ども応援実行委」（23 年 1 月 26 日、八重山日報（Web）） ・ 「5 月に『子ども応援まつり』」（23 年 1 月 26 日、八重山毎日） ・ 「お金で揉める両親を見て…」重くのしかかる派遣費離島ではより深刻に」（2023 年 2 月 20 日　TBS NEWS DIG（Web））</

広報制作物等	有	・ 2020/2021 年度 沖縄・離島の子ども派遣基金 事業補助実績 ・ 沖縄・離島の部活動等派遣費問題白書
報告書等	有	・ 【第３弾】 部活動派遣費を考える地域円卓会議 in 豊見城　報告書 ・ 【第３弾】サッカー協会と部活動派遣費問題を考える地域円卓会議　報告書 ・ 【第 3 弾】部活動派遣費問題を考える地域円卓会議 in 八重山　報告書 ・ 【第４弾】 部活動派遣費を考える地域円卓会議　報告書 ・ 調査報告書　沖縄県スポーツ関連団体の派遣費に関する実態調査

5. 実行団体への事業完了時監査

いずれかにチェック☑をつけていただき、項目ごとの設問に回答してください。

実行団体への事業完了時監査は実施しましたか。
☑ 実施済み　／　☐ 実施予定（完了予定時期：　　）
→上記で「実施済み」を選択した場合、どのような評価できる点や課題があったか、その他気づいた点などを記載してください。 ● 評価できる点 ・ 円卓会議など、イベントを通じてメディア（新聞、テレビ）を通じての情報発信はかなりできていた。 ・ 各実行団体とも、事業が得られた知見を元に事業終結後も継続した取り組みができるように、政策化、ファンドレイズイベントの開催、他の手法の模索など行っている。（豊見城体協：行政の旅費補助メニューに帯同者の旅費補助も追加された。ハブクリエイト：地域ぐるみで部活補助のファンドレイズまつりを 6 月に開催予定。サッカー協会：離島チームが本島の遠征時に活用できるマイクロバスの貸し出しの仕組み化した。） ・ 3 年間（単年ではない）で旅費補助というアクションリサーチ的な手法で、周辺課題が明らかになり、白書という形でまとめることができた ● 課題 ・ 各実行団体の関係者に対しては情報発信されたいたが、WEB などを通じての一般向けの情報発信があまりなされなかった。実行団体が発信したい層と本事業で発信した層の違いが感じられた。情報発信の方法や対象（関係者向け、一般向け）については、事前に調整する必要があった。 ・ 株式会社の規程類と情報公開について、非営利団体との差が大きく、今後議論が必要でないか ・ 今回の実行団体の 3 年間の取り組み結果を受けて、最初想定していた結果とは異なり、課題の広がりや波及効果、取り組み方は多岐にひろがっており、1 歩、2 歩進んだというのは感じた。しか

し、社会的インパクトの評価については難しさを感じた。

- その他

6. その他（本助成を通じて組織として強化された事項や新たに認識した課題、今後の対応/あればよいと思う支援や改善を求めたい事項など、自由にご記載ください。）

- 良かった点
・ 今まで資源がつかずなかなか取り組めなかった地域課題に取り組める
  ➢ アクションリサーチの手法で、モデル、仮設の取り組みながら検証できる
・ 助成金の金規模が大きいので、全県的な課題に取り組める
  ➢ 多様な実行団体へ助成し、チャレンジできる
・ プログラムオフィサーの配置ができる
  ➢ コミュニティ財団として PO を配置し取り組み体制が整い、財団内での人材育成を行うことができた
・ 休眠事業後の地域での取り組みにつなげることができた

- 課題、気になる点
・ 資金分配団体とは何か？地域で期待される役割は
  ➢ 地域での役割として、小さい行政？小さい財団？それとも
  ➢ 資金分配団体の形態が多様になっているので、何者かの定義が必要では
  ➢ 資金分配団体としては、取り組みが終わるが、それらの団体との今後の関係性はどの様になるのか
・ 実行団体とは？
  ➢ 実行団体は、多様な法人形態（NPO 法人、株式会社など）になっており、それぞれの法人制度によって、もともと厳しく律されているものから、緩いものまで多岐にわたる。その中でのガバナンス、コンプライアンス体制の検討は必要ではないか
  ➢ 特に 1 人株式会社については、外形的に書類を整えても意味をなさない書類が多い気がしている。
・ プログラムオフィサーとは？
  ➢ 人材育成、職能となり、多くの人たちが従事しているのは良い変化だと思う
  ➢ 休眠事業以降のキャリアパスなど含め設計が必要では
・ 休眠事業後の地域での取り組みへの移行の工夫
  ➢ 出口ではないアプローチ、地域での取り組みへ
・ プログラム評価、プロジェクト評価
  ➢ 助成プログラムは？　助成事業の評価は？

- ➢ JANPIA、資金分配団体ともに必要ではないか
- 都道府県の規模によっての取り組み
  - ➢ 人口規模によって、地域のリソースが異なる（人、物、資源）なかで、休眠預金事業の設計がきめ細かく必要でなないか
  - ➢ CF でも同様な議論
- 事業より得られた知見の共有と提言
  - ➢ 誰と何を、どのように共有するのか
  - ➢ 多様な主体と当事者化するには「国民全体のような広いアプローチでなく」→ステークフォルダに
  - ➢ 資金分配団体、実行団体の取り組みが JANPIA に全国から集まってくるので、今、何が起きっているのかを分析し所感的なもの出してもよいのでは
- JANPIA の ToC の更新。最新のマップを
  - ➢ 5 年が経過し、多くのことが明らかになった段階での指針の作成と共有
  - ➢ JANPIA の活動も他のセクターとの連携を図りインパクト設計を検討してほしい

【添付資料】

活動の様子がわかる写真　5 枚程度

JANPIA の事業報告書や WEB サイト、SNS 等で公開可能な写真を 5 枚程度（1 枚 2MB 以下）ご提出ください。（肖像権・著作権に十分にご注意ください。）

それぞれどんな場面の写真なのか、1 枚あたり 50 字から 200 字程度で説明を記載していただきますようお願いいたします。

※ご提出をもって JANPIA での使用にご了承いただいたこととし、使用時に改めて確認はいたしませんので、ご承知のうえ、使用に差支えのない写真（使用許可をとった写真や個人が特定される写真を避ける等）を選んでいただきますようお願いいたします。

- 3 つの実行団体を通じて、2020 年度～2022 年度の 3 か年で延べ約 200 大会、約 1,600 人に対して旅費補助を実施した。写真は補助先の一つで、石垣島から沖縄本島の大会に参加した小学生バレーボールチーム。

- 2020 年度～2022 年度の 3 か年で、部活動等派遣費問題に関する円卓会議を 13 回実施した。写真は 22 年 8 月に実施した円卓会議：「障害者スポーツ大会への選手派遣に関わる課題を通して考える体験保障」のグループワークの様子。

- 写真は、2023 年 2 月 18 日実施の「沖縄・離島の部活動等派遣費問題白書発行記念シンポジウム～子どもの体験保障の観点から派遣費問題を考える～」の様子。登壇者 12 名に加え、18 名の方にご参加いただいた。また、メディアでもシンポジウム関連記事を 3 件取り上げていただいた。

- 写真は「沖縄・離島の部活動等派遣費問題白書」（全 38 ページ）。沖縄・離島の部活動等派遣費問題について、さまざまなステークホルダー（利害関係者）からの意見や成果報告、当財団で独自に行った調査などをもとに、その実態を詳しく紹介した。さらに「この問題に対して、地域社会はどのような支援が可能なのか」についても、具体的に考察・提言を行った。1,500 部発行し、関係者及び沖縄県内の学校教育機関や行政を中心に配布した。

- 写真は 2022 年 7 月、評価アドバイザーによる実行団体との集合研修の様子。年に数回程度、評価計画や事業振り返りを中心とする研修を実施した。

SHURI
SHURI